

災害時要援護者支えあい活動

災害時には地域の支えあいが必要！



災害はいつやってくるかわかりません。いざというとき、頼りになるのは地域の力です。災害時の地域の支えあい活動について紹介します。

写真：厚別東地区の防災訓練

一刻を争うとき、行政の支援は間に合わない

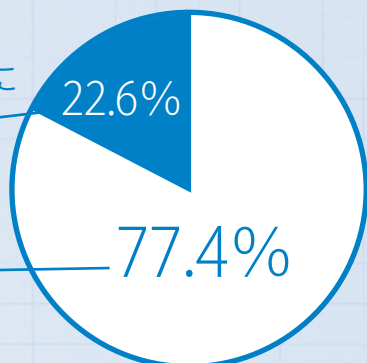
大きな災害が発生した直後など一刻を争うときは、行政による個別の支援が間に合わないことが過去の災害を見ても明らかです。このため、隣近所をはじめとした地域の主体的な対応が最も重要です。

頼りになるのは、ご近所さん

平成7年の阪神・淡路大震災の際には、倒壊した家屋などに閉じ込められた人たちの約8割が家族や近隣の住民により助け出されています。地域による支えあいがとても大切です。

警察・消防・自衛隊により救出
(約7,900人)

家族や近隣住民により救出
(約27,100人)



参考文献 [河田恵昭「大規模地震災害による人的被害の予測」『自然災害科学Vol.16, No.1』(1997), p.8] より

日頃から、地域で防災・減災力を育む

災害はいつ発生するか分かりません。日頃から、自分自身でできること、近所の人とできることなどを考えていることが大切です。パンフレットなどを参考に防災について考えてみましょう。



厚別区の防災や資料については、区役所総務企画課 地域安全担当係 ☎895-2400(内線 227)

自分や家族が動けないとき、どうやって避難しますか？

災害時に避難する際、高齢者、障がい者、妊婦など支援を必要とする人たちがいます。過去の災害の経験から、札幌市は「災害時要援護者避難支援ガイドライン」を作り、災害時における地域の支えあい活動を推進しています。厚別区では、厚別東地区で積極的な活動が行われています(右ページ)。